



第7号

平成21年(2009年)5月25日(月)発行
発行元:みやげじま『風の家』
(三宅島災害・東京ボランティア支援センター)
発行責任者:坂上 幸一郎
東京都三宅島三宅村阿古532-1
(社団法人 日本建築学会三宅島研修所併付)
電話:04994-5-1470 FAX:04994-5-1471
E-mail:miyake_kaze@dolphin.ocn.ne.jp

みやげじま『風の家』でくりかえされる日常の中で、人と人との間に灯される「やさしさ」を切り取っています。
多くの方が“やさしく なかよく”つながっていることの大切さ。
ただそれだけを見つめて・・・

(^o^) 新緑の『5月』 陽気に誘われ・・・



一年のうちでも、とても過しやすい『五月』を迎えました。

すがすがしい緑の新芽が目には鮮やかです。ちょっと外に出てみれば、自然の美しさと芽吹きの方強さに触れることができますね!

こんな日は『風の家』のみんなも、元気良く出かけますよ! 気持ちの良い空気に包まれて、自然と活力が生まれて、笑顔と心もはずみます。



もちろん、みんなで楽しくおしゃべりしたり『うた』を歌ったりする時間もかせません。

こうして、一緒に楽しく過ごす時間の積み重ねは、何にも変えがたい大切なものです。

『風の家』が積重ねているものは、きっとそういうものなのかもしれません・・・

(- -) 『細井竹一さんお別れ会』～心を込めて「ありがとう」を～



去る3月、『風の家』の運営協力員として活動いただき、共に歩んできた細井竹一さんがお亡くなりになりました。

『風の家』でのご活躍だけではなく、多くの方々と接してこられた細井さん。ご家族の島への強い想いを受けて『お別れ会』を催しました。

多くの島の仲間たち、そしてご家族もお越しになられて、やさしさが溢れる会を通じて、心からの「ありがとう」を贈らせていただきました。

(^_^) エールとともに



『風の家』では、久しぶりの再会を喜びながら、楽しい交流の時間を持つことができました。

『風の家』そして三宅島は、噴火災害という厳しい災害を通じてではありますが、確かな出会いを持っている島、そしてそれはとてもうれしく素敵なことだと改めて感じた一日でした。

(^J^*) 昨年引き続き、ようこそ！

自治労東京都本部によって、昨年から取り組まれている「三宅島復興支援現地交流会」が今年も行われました(5月23日土)。

支援センターでの帰島支援事業を共に進めてきた皆さんが、形を変えて引き続き三宅島というフィールドを活用して、良い交流を深めていけることは、本当にうれしいことだと思います。

!(^!) みんなで気をつけ合いましょネ

「新型インフルエンザ」の国内での発生に伴って、テレビ報道や新聞などを通じて、「うがいと手洗い」などの予防策や対処法などが連日伝えられています。

体調の管理には十分に気をつけましょう。

『風の家』でも、関係機関の皆さんと連携を取りながら、正確な各種の情報をもとに運営していきたいと思ひます。

夏のような陽気が続いたと思えば、朝夕の肌寒さも訪れ、体調の変化も起りやすい季節になりました。くれぐれも体調管理には気をつけて元気に過しましょ！！

5月20日(水) シャンティ国際ボランティア会(SVA)より、関事務局長、薄木緊急救援担当のお二人が『風の家』を訪れてくれました。

この間の当センター事業を共に進めていただいたお二人との久しぶりの再開とあって、想い起されるのは『帰島』間もない島内での帰島支援事業での出来事ばかり。振り返れば、あれから4年余りの時間が過ぎていました。

「当時の島の様子からは想いも由らないほど、ひとの息遣いがとても力強くよく感じられる」とお話しされていました。



今回はご当地三宅村役場の方々も参加されました。『風の家』へも分科会として足を運ばれ、短い時間でしたが、交流とともに笑顔の交換が行われました。

(^_^)/ 「風の家」ご一緒にしませんか！！

『風の家』では、日頃の活動の中で、「ボランティア」としてご一緒にいただける方を、引き続きお待ちしております。

『風の家』での約束事は「やさしく」そして「仲良く」です。



目には決して見えないものですが、きっと人々との良い出会いは、「暮らし」の中でとても大切なものだから…

ぜひ、お気軽においでください。

(^_^)/ ご支援いただきありがとうございます

みやけじま『風の家』は月曜から土曜までの、朝10時から夕方3時まで開設しています。

(日曜・祝日・年末年始はお休みです)

お近くにお越しの際は、どうぞ気軽にお立ち寄り下さい。